

おしえてドクター 高齢者の目の健康

加齢にもなう病気と治療法

年を重ねると体のいたるところに変調をきたす。目もその一つ。老眼(老眼)は誰もが感じるところだ。中途失明の原因の第1位になる緑内障も気になる病気。さらに加齢黄斑変性も。大阪市西区の医療法人聖明会坪井眼科は白内障や網膜剥離などの手術実績が多い。同眼科理事長・坪井俊児院長に加齢にもなう目の病気の原因や治療法などを聞いた。

老眼

老眼はなぜ起こる

坪井 人間の目は角膜が70%、水晶体が30%の屈折力を持っています。水晶体がなくなると、モノを見ることはできませんが、ピンと合いません。ピンとは、水晶体が厚くなったり、薄くなったりして調節していき

原因は水晶体が年齢とともに硬くなることです。その周りの筋肉(毛様体筋)は水晶体の屈折力の状態に合わせて変化させる役割(調節)をしています。その機能が衰えて、ピンと合わせができなくなるからです。

老眼は45歳頃から始まり、60歳を過ぎても近くが見える人はいますが、老眼は「近くが見にくい」と同じではありません。60歳を過ぎて調節力の

医療法人聖明会坪井眼科 坪井 俊児理事長



白内障手術で同時に矯正

ある人は、ほぼほぼと老眼以外での矯正法は、対症療法で、最初に思いつづけるのは老眼鏡ですが、坪井 眼鏡専門店以外で市販されている老眼鏡は、ほとんどが1ディオプター(D)眼鏡の屈折力の単位)、2D、3Dなど粗い刻みの屈折力になっていて、しかも、乱視は矯正されていません。乱視がなく、左右の視力が同程度であれば、この老眼鏡でも問題はありませ

坪井 老眼鏡以外での矯正法は、角膜を屈折矯正するレーシック、水晶体に単焦点眼内レンズや多焦点眼内レンズを挿入するなどの治療法があります。レーシックと単焦点眼内レンズには、左右の視力に差をつけることで、片方は遠くを、片方は近くを見る方法(モノビジョン)があります。しかし、モノビジョンは立体的な像を見る力が弱くなります。

老眼になる年代は、ほぼ白内障が発症しています。眼内レンズで白内障の治療と同時に老眼の治療ができますが、モノビジョンになる単焦点眼内レンズよりも多焦点眼内レンズの方が良いと思います。坪井 では多焦点眼内レンズについては、多焦点眼内レンズには遠用・近用の異なる2つのレンズを組み合わせて光を配分する屈折型レンズと、回折現象で遠近を2つに分ける回折型レンズがあります。この眼内レンズを挿入することで、遠くと近くが良く見えるようになります。ただ、単焦点レンズに比べ解像度が多少は甘くなります。

坪井 白内障治療の多焦点眼内レンズは、国の先進医療に認められています。先進医療実施の認定を受けている医療機関であれば、診察や検査、投薬などは保険適用になり、手術は保険適用外となる混合診療になります(白内障ではなく老眼の治療が目的の場合は、保険適用外の自由診療)。また、この治療は先進医療になりますので、民間保険会社の医療保険の上積み部分である先進医療保険での支払い対象になります。

最近、白内障や老眼治療で注目される多焦点眼内レンズがあります。

坪井 「レンジス エムプラス」です。このレンズは屈折型で、遠用と近用の境目が瞳の形に合わせて、スムーズにつながっています。また、患者の視力に応じて、屈折力が0.01D刻みで提供され、乱視も矯正できるなどオーダーメイドができます。

当院ではこの1年間で約40件の治療症例があります。患者の視力回復の満足度は高いです。しかし、このレンズは国内未承認で、先進医療の適用外になり、全額自費診療になります。一般的には1眼、約60万円です。

緑内障

次に高齢者に多い緑内障の原因と症状は、坪井 眼球の中の水(房水)の流れが悪くなって眼圧が高くなり、視神経が障害されます。最終的に視力が悪化します。緑内障の原因は多くありますが、

大きく分けると3つあります。1つは開放隅角緑内障です(隅角は房水の出口)。これは体質的なもので、もともと視神経が弱いため、眼圧が上がるとさらに視神経が障害を受けます。この緑内障の半数以上は眼圧が正常ですが、視神経が傷んでいます(正常眼圧緑内障)。

坪井 片目ずつ視力を調べるのが見えます。一番見やすい部分を見ても、字や物体が見えにくくなったり、ゆがんで見えたり。検査では方眼紙のような図を見て、格子のゆがみを調べるアムスラー検査があります。

坪井 開放隅角緑内障と続発緑内障は、点眼薬が基本です。ときに手術を追加しますが、進行を抑えることしかできません。緑内障は、視神経がいったん障害を受けると、治療しても

元に戻すことはありません。閉塞隅角緑内障の治療の基本は、隅角を広げて房水の流れを良くし、眼圧を下げることで、60歳代以上では、水晶体が膨らみ、隅角が圧迫されている人がいます。薄い眼内レンズを挿入することで、隅角が広がり、房水が流れやすくなります。このように、閉塞隅角緑内障は白内障の手術で予防や治療ができます。

早期発見にOCT診断を

加齢黄斑変性

次に高齢者に多い加齢黄斑変性は、坪井 片目ずつ視力を調べるのが見えます。一番見やすい部分を見ても、字や物体が見えにくくなったり、ゆがんで見えたり。検査では方眼紙のような図を見て、格子のゆがみを調べるアムスラー検査があります。

核酸を破壊します。その紫外線を防御するため「黄斑」の字のとおり黄色の色素があります。年をとると防御作用が衰え、黄斑を再生しようと新しい血管(脈絡膜新生血管)が発生し、その影響で網膜が障害されます。

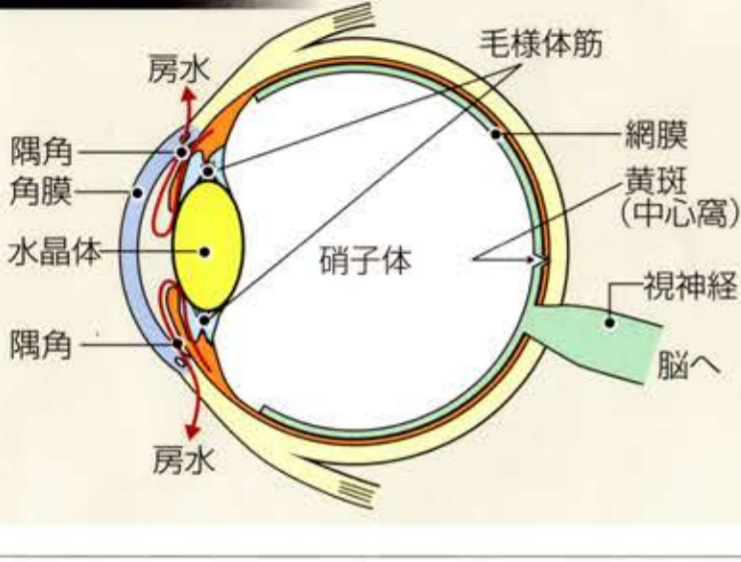
を収縮させる新しい薬があり、目の中(硝子体)に注射します。視力の維持、改善は見込めますが、正常な視力にはなりません。網膜色素上皮が萎縮する加齢黄斑変性には、現在、治療法はありません。

紫外線で網膜に障害

また、新しい血管の発生はありませんが、網膜色素上皮が徐々に萎縮し、網膜が障害され、視力が低下するタイプもあります。

坪井 脈絡膜新生血管が原因の加齢黄斑変性には、新生血管

目の構造



症状は、坪井 見えな

目を健康に保つには、坪井 目の病

専門医で検診を受けることす

ね。